

人との繋がりを大事に、牛も人も幸せな牛飼いを目指す

1 現在の農業経営の概要

経営地・氏名	三重県 大矢 幸一 さん
経営開始年	平成25年（2013年）
営農類型	肉用牛（繁殖）
経営規模	繁殖雌牛23頭
公庫資金ご利用歴	<就農3年目> 規模拡大のため青年等就農資金 （5百万円）



2 就農までの経歴・就農のきっかけ

千葉県（非農家）出身。当初は大学進学を考えていたが、三重県内の農場でアルバイトをしていたところ、肉用牛生産の奥深さに魅了される。アルバイトから社員となり、当農場で10年間、子牛、育成、繁殖、自給飼料生産等、様々な部門に従事。独立を視野に入れ、家畜人工授精士の資格を取得。

その後、「自分の力を試してみたい」との思いから、独立。離農する畜産農家より牛舎を借り受け、親牛8頭を導入し、経営開始。

3 今後の抱負/後に続く新規就農者の方々に送るエール

◆今後の展望◆

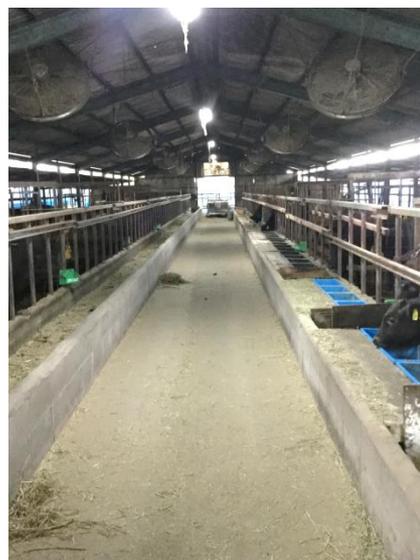
同じ繁殖経営を営む仲間と新たに法人を作る予定です。現在の農場では規模拡大に限界があり、労働力も自分だけなので、何かあったときに対応できる人がいません。

この先30年安定した経営を続けるには、牛も人も幸せな環境を整備する事が大切と考えています。そのために、周囲の力も借りながら、施設整備や労働力確保、作業の効率化等を行い、出荷先に喜ばれる牛を育てていきたいです。

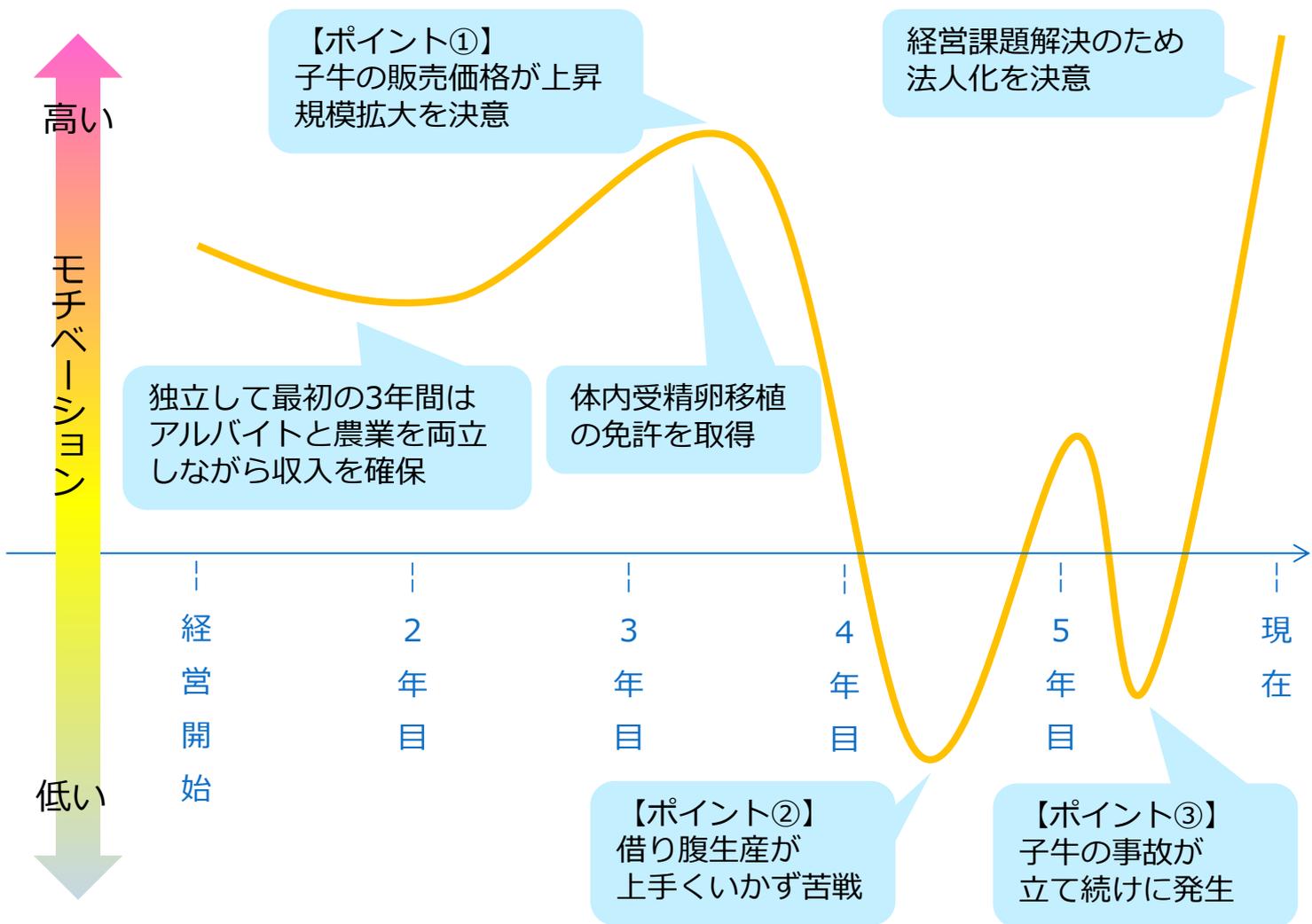
◆後輩の皆さんへ◆

8頭から始まった経営ですが、現在では約3倍の規模までになりました。地道な作業が多い一方で、試行錯誤を繰り返しながら、自分の目指す経営に少しずつ近づいていけるところに面白味を感じています。

畜産は生き物相手ですので、予期せぬトラブルがたびたび発生します。そんな時に相談できる相手を持てるよう、常日頃から人との繋がりを大切にすることが重要かと思えます。



4 大矢さんのこれまでの経営とモチベーショングラフ



5 モチベーショングラフのポイント解説

主なできごと / 経営上の課題と解決策

- ① 就農して以降、自己資金で少しずつ頭数を増やしてきましたが、繁殖農家減少に伴う子牛の販売価格上昇をチャンスと感じ、融資を受けて規模拡大することを決意。借り腹生産※も含め、年間約40頭を出荷するようになりました。
※雌牛に過剰排卵処理を施して採取した受精卵を、他の雌牛に移植して子牛を生産すること。
- ② 規模拡大によって売上は増加したものの、借り腹生産が一部上手くいかず苦戦しました。生産面で悩みが生じた時は、近隣の繁殖農家や知り合いの獣医師などに相談し、アドバイスをもらいながら1つずつ解決しています。
- ③ 子牛の事故が立て続けに発生し、対応に追われました。なんとか原因究明に至ったものの、自分の力の無さや労働力不足を感じ、法人化を決意するきっかけの1つとなりました。